

縄文土器のAMS¹⁴C年代(4)

山本直人 (名古屋大学文学部考古学研究室,
E-mail j46043a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp)
小田寛貴 (名古屋大学年代測定資料研究センター,
E-mail L46851a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp)

これまで3年間にわたって、石川県内の縄文時代の遺跡を対象にして、土器型式が明確な縄文土器に付着した炭化物を試料に、タンデム加速器質量分析計で¹⁴C年代測定をおこなってきた(山本1997・1998・1999)。昨年度(1998年度)後半から今年度(1999年度)前半にかけても、これまでの研究を継続して測定を実施してきており、その結果を報告するものである。この期間中に測定したものは3遺跡12点で、採取した試料の詳細は表1にしめすとおりである。

また、測定の結果は表2にしめすとおりである。従来はAMS¹⁴C年代をしめすだけであったが、較正年代を提示する必要性を認識し、今年度からは較正年代も並記するようになった。表2の較正年代において、()内の数値は¹⁴C年代の平均値を較正した値であり、()外の数値は較正後の誤差の範囲をしめしている。

表1 採取試料一覧表(重量の単位はmg)

試料番号	遺跡名	時期	土器型式	器種	付着部位	試料重量	処理後	残存率(%)
17MBK02	三引	前期	佐波	深鉢	外面・口縁部	308.09	127.96	41.5
17MBK03	三引	前期	佐波	深鉢	外面・口縁部	295.00	131.41	44.5
17KYH01	上安原	中期	新保	深鉢	内面・口縁部	187.36	40.70	21.7
17KYH03	上安原	中期	新保	深鉢	内面・口縁部	144.30	23.81	16.5
17OKD30	御経塚	後期	加曾利B1	深鉢	外面・口縁部	114.07	37.22	32.6
17OKD31	御経塚	後期	加曾利B1	深鉢	内面・胴部	38.86	不明	不明
17OKD32	御経塚	後期	加曾利B1	深鉢	内面・口縁部～胴部上半	131.29	60.11	45.8
17OKD44	御経塚	後期	井口II	深鉢	外面・口縁部	96.59	不明	不明
17OKD48	御経塚	後期	井口II	深鉢	内面・口縁部	52.42	不明	不明
17OKD49	御経塚	後期	井口II	深鉢	内面・胴部上半	58.74	不明	不明
17OKD36	御経塚	晩期	下野	深鉢	外面・胴部	129.34	28.70	22.2
17OKD37	御経塚	晩期	下野	深鉢	外面・口縁部	94.87	15.92	16.8

表2 測定結果一覧表

試料番号	^{14}C yr(BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	較正年代(cal BC)	測定コード
17MBK02	6205±123	-24.8±0.1	5269 (5211,5166,5139) 4965	NUTA-6723
17MBK03	6289±101	-24.8±0.1	5318 (5255) 5204, 5174 () 5134, 5119 () 5080	NUTA-6675
17KYH01	4888±107	-25.1±0.1	3778 (3660) 3626, 3567 () 3541	NUTA-6720
17KYH03	4630±214	-26.1±0.1	3643 (3367) 3035	NUTA-6721
17OKD30	3650±100	-24.6±0.1	2140 (2018,2003,1981) 1884	NUTA-6469
17OKD31	3672± 95	-26.4±0.1	2187 () 2162, 2145 (2032) 1905	NUTA-6471
17OKD32	3664±101	-23.7±0.1	2185 () 2163, 2144 (2028,1995,1987) 1888	NUTA-6470
17OKD44(1)	3167±106	-23.8±0.1	1521 (1423) 1313	NUTA-6742
17OKD44(2)	3304±110	-23.8±0.1	1732 () 1725, 1687 (1593,1581,1528) 1439	NUTA-6748
17OKD44(av.)	3235± 76	-23.8±0.1	1599 () 1565, 1530 (1512) 1418	
17OKD48(1)	3021±196	-24.3±0.1	1502 () 1479, 1459 (1262) 981, 961 () 939	NUTA-6743
17OKD48(2)	3055±114	-24.3±0.1	1424 (1310) 1125	NUTA-6746
17OKD48(av.)	3038±114	-24.3±0.1	1416 (1292,1287,1267) 1117	
17OKD49	3095±131	-26.3±0.1	1510 () 1470, 1470 (1389,1334,1327) 1190, 1189 () 1161, 1143 () 1136	NUTA-6747
17OKD36	2481± 85	-24.2±0.1	789 (756,686,541) 406	NUTA-6472
17OKD37	2870± 97	-24.3±0.1	1194 () 1184, 1163 () 1142, 1138 (1009) 907	NUTA-6473

謝辞

試料調整やタンデトロン加速器質量分析計による ^{14}C 年代測定に際しましては、中村俊夫先生をはじめとして池田晃子氏、名古屋大学年代測定資料研究センター第一実験室の方々には、たいへんお世話になりました。記して深く感謝する次第です。

また、石川県教育委員会の沢辺利明氏、金沢市埋蔵文化財センターの小西昌志氏、野々市町教育委員会の吉田淳氏には貴重な試料を提供していただき、明記して謝意を表する次第です。

引用文献

- 山本直人, 1997, 「縄文土器のAMS ^{14}C 年代(1)」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』Ⅷ, 222-230頁, 名古屋大学年代測定資料研究センター:名古屋.
- 山本直人, 1998, 「縄文土器のAMS ^{14}C 年代(2)」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』Ⅸ, 161-170頁, 名古屋大学年代測定資料研究センター:名古屋.
- 山本直人, 1999, 「縄文土器のAMS ^{14}C 年代(3)」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』Ⅹ, 121-124頁, 名古屋大学年代測定資料研究センター:名古屋.